

第1回 富山県成長戦略ブランディング戦略プロジェクトチーム 議事要旨

日時：令和4年8月8日（月）16:00～17:30

場所：富山県知事政策局長室、オンライン

1. 事務局説明

①ブランディング戦略のKPI設定について、②ブランディング戦略ワーキンググループの見直し、③ブランディング戦略プロジェクトチームのミッション、④令和4年度アクションプランの抽出事業の進捗・検証について、⑤令和5年度以降に取り組む事業の検討について、事務局から説明

2. 委員の主な発言

- ・昨年度は幅広く意見を聞いてきたが、今年度は選択と集中で戦略を練り上げ、向こう5年～10年の背骨になるものを創っていく必要。
- ・富山にはポテンシャルはあるが魅力化できていない。振り向かせることが必要。
- ・コロナの影響を踏まえると、観光は今までやっていたことの延長ではダメ。
- ・食や美術、音楽、自然にこそ人が惹かれてやってくる。
- ・富山は住むと魅力があるが小粒。鯖江と聞いたら眼鏡の町と思うように、ブランディングで成功しているところのように取捨選択してトップダウンで進めることも必要。
- ・魅力にたどり着くには入口を整え、まずは玄関まで来てもらうこと、つまり認知してもらうことが大事。
- ・「富山といえば〇〇」と思い浮かべる何か、明確なイメージを創ることが必要。
- ・既存のコンテンツを単に発信するのではなく、この領域なら富山、というものを創り上げて外部に発信する。その領域を決める必要がある。
- ・ブランド確立のためには選択と集中、またハード・ソフト両面で投資が必要。
- ・外から来た人たちに街の良いところを案内したり、偶発的な出会いを演出したりできるコンシェルジュの役割を担う人が必要。
- ・魅力的な地域資源はいくつもあるが体験として活かしているものが少ない。魅力的な場所に魅力的なコンテンツを入れる必要がある。
- ・県内にいると日常に溶け込みすぎて気が付かないことも多いので、外からの目線を持って議論していくことが大事。